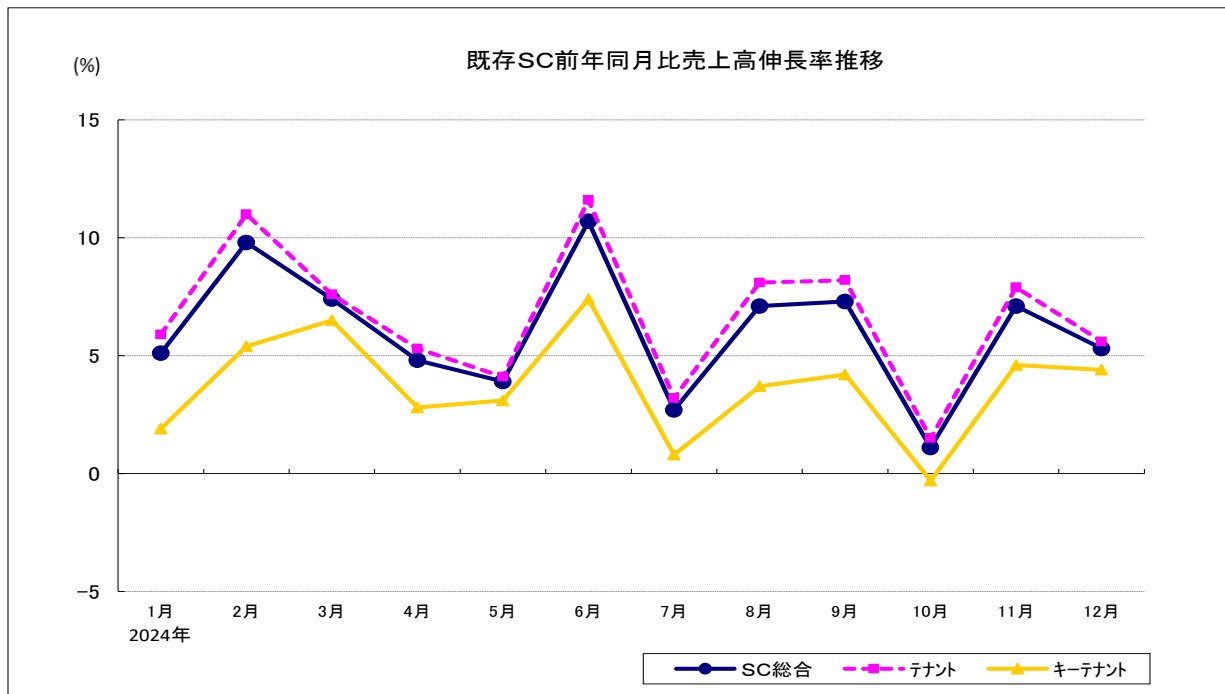


SC年間販売統計調査報告2024年
既存SC前年比伸長率: +5.8%

SC年間売上高(推計) 32兆1,254億円(前年比+4.2%・消費税抜・全SCベース)
館内・近隣イベント効果や国内外旅行客の来館増で好調に推移

＜全体概況＞

- 2024年(暦年)の既存SC売上高(総合)は、2023年比で+5.8%の伸長率となった。新型コロナウイルスが発生した2020年には既存SC売上高前年比が▲22.3%と落ち込んだが、2021年以降は毎年前年比プラスで推移している。
- キーテナントを除くテナントは前年比伸長率+6.4%となった。2024年は館内・近隣イベントの開催、大都市を中心に円安の影響でインバウンド客の来館が増えたことにより、前年超えとなった。ファッション業種は、プロパー商品やジャストニーズの商品を展開できた店舗が好調だった。また、猛暑が続き夏物商材が長期間稼働した。飲食業種は、国内外旅行客や近隣イベント参加客、グループ客などの来館により、一年を通じて好調だった。
- キーテナントは前年比伸長率+3.7%となった。円安の影響でインバウンド客による高単価商材の稼働もあり、とくに百貨店が好調だった。食料品を扱うスーパーは、商品の価格高騰が売上増につながった。
- 月別の動向をみると、通年で前年比プラスで推移した。1月(+5.1%)は、新年会などのグループ利用で飲食業種が売上げを牽引した。2月(+9.8%)は、うるう年や春節、3連休が2回あったことで国内外旅行客の来館が増えた。3月(+7.4%)は、前年に比べて休日日数が2日多かったことや館の販促施策が来館者増につながった。4月(+4.8%)、5月(+3.9%)は、気温上昇により春物商材だけでなく夏物商材も稼働した。6月(+10.7%)は、梅雨入りが例年より遅れたことやその間の気温上昇により夏物商材が稼働し、2桁伸長となった。7月(+2.7%)、8月(+7.1%)は、全国的に猛暑が続き盛夏商材が稼働した。9月(+7.3%)は、休日日数の増加や館内・近隣イベントの開催で来館が増えた。10月(+1.1%)は、暑さが続き秋冬衣料が伸び悩んだが、雑貨や飲食が売上げを支えた。11月(+7.1%)は、中旬からの気温低下に加えセールが後押ししたことで冬物商材が稼働した。12月(+5.3%)は、館の販促施策やプレセール、気温低下により冬物商材が稼働した。



以上

この件に関するお問い合わせは 情報・リレーション部: 菰田・木口
TEL: 03-5615-8524

※お手数をおかけ致しますが、掲載紙・誌をお送りいたしますようお願い申し上げます。掲載部分をファクシミリにてお送りいただいても結構です。



一般社団法人 日本ショッピングセンター協会

広報担当: 浅田・高橋・村松

Tel. 03-5615-8524 / Fax 03-5615-8539
Mail: pr@jcsc.or.jp